

高岡市総合計画審議会 第5回総括部会 議事要旨

- 1 日 時 令和4年11月22日(火) 17:00~18:00
- 2 場 所 高岡市役所8階 803会議室
- 3 出席者 委員6名、参与2名、有識者3名
- 4 概 要 総合戦略について
 - ・第2期総合戦略「みらい・たかおか」の進捗状況について報告
 - ※詳細については以下のとおり

5 総括部会の内容

(1) 開 会

(2) 市長挨拶

(3) 議 事

- 事務局** ・資料 No.1 及び No.2 第2期総合戦略「みらい・たかおか」の進捗状況について説明
- 委員** ・人口が約1%減少しているが、特別な要因があるのか。
- 市長** ・要因としては、自然減に加え、進学による転出が大きい。また、就職の際に転出者が多数いる状況の中で、高岡に魅力的な会社があることを、しっかり伝えていかない限り、この大きい流れは変わらない。それに加え、転入では、女性が働きたい場所はあるが、マッチングがうまくいっていない現状もある。次年度以降、挑戦していくべき課題である。
- 事務局** ・若い方の進学、就職によって転出者が多い。ここ数年の社会動態では、コロナ禍において転出抑制となったが、令和3年度からは、県外に転出される動きが再び戻ってきた状態がこの指標に表れている。
- 委員** ・今の総合戦略では、例えば工業団地への企業進出が、高岡の就業のキャパをどの程度広げているか見えてこない。
・為替、ウクライナ情勢、中国の情勢を見たときに、海外にサプライチェーンを出した企業が引き揚げてくる候補地として高岡を選んでもらうことや、輸出ドライブをかけられるような企業を誘致することなど、今の時代に合わせて、物の見方を考え、変えていく必要がある。
- 市長** ・企業誘致により、どれだけの雇用を生んでいるのかについて、総合戦略に反映できていない指標になっているため、見直しをかける際には検討する。
・高岡は、日本海側の交通の結節点という売り出しポイントがある。どこにどんな工業団地

が必要とされているか、企業の皆さんへのヒアリングを終えたところで、一定程度の方向性は見えてきている。これからは、一旦海外に出た企業が引き揚げてくる可能性があるため、視野の広い企業誘致を考えていかなければいけない。

- 委員**
- ・ 地元の大学も頑張っているが魅力を伝えられていない。
 - ・ 地元で働くために、県外で学んでくる。そういった意気込みをもった人が、高岡に戻ってきたときに、しっかり応援していくことができればいい。
- 部会長**
- ・ 地元の大学は学生確保に腐心している。
 - ・ 地元で学ぶことの良さを発信するとともに、流失しないための方策も考える必要がある。
- 市長**
- ・ 地元の子が地元に進学後、県内に就職する場合、県外に就職する場合、一旦県外に就職し地元に戻ってくる（Uターン）場合もある。そのため、高岡をいろんな可能性を秘めた場所にしていかなければいけない。
- 委員**
- ・ 小中学校時代における教育で、地元を誇りを持てる、高岡に生まれてよかったと思えるように、大人達が示していけることが一番重要である。
- 市長**
- ・ ものづくり・デザイン科という既存のメニューを発展させ、小中学生にふるさと教育を行うことが必要である。
- 委員**
- ・ 大人たちの高岡に対する思いに関して「謙虚が美德」という雰囲気や風土を変えていかなければならない。
- 市長**
- ・ 大人が率先してふるさとに対する誇りを持ち、一つでもいいから自分の好きな高岡のポイントを持つようにしなければならない。そのためには、市民の意識を変えていく取り組みを作っていかなければいけない。
- 委員**
- ・ 先日からマスコミや新聞等で、「高岡が元気である」という報道をしている。そういう動きがすばらしい。
- 市長**
- ・ 基本的には記者会見は明るい話題で前向きにとらえていただけるように、綿密な打ち合わせをしながら報道発表を実施している。
- 有識者**
- ・ 高岡市の魅力がなかなか伝わってこない。
 - ・ 市民と市政は、行政用語で書かれているため、もう少し平易な言葉にならないのか。
 - ・ デジタルによる施策を考えていただきたい。例えば、高岡市のインスタのハッシュタグを若者言葉で貼り付けるなど。

- ・クリエイターやアーティストの人たちが住めるまちづくりをしてもらいたい。魚津市が、東京ゲームショウで、出展しているゲームメーカーのブースを回って同市への進出を売り込んでいた。

市長

- ・この5カ年で、ふるさと納税の金額が10倍以上になったため、関心を持っていただいていると感じている。今、複業人材を活用して、広報に対して、改革を進めることを考えている。
- ・行政用語を分かりやすく噛み砕いて伝えることが重要であると認識しており、少しずつ市役所内部でも浸透してきている。
- ・若い世代に少しでも届くように、ハッシュタグをつけて発信していかなければいけない。
- ・eスポーツというキーワードを高岡は手にしている。eスポーツ業界の方々が挑戦しやすい環境をより高めていき、魚津に負けないセールスをしていかなければならない。

有識者

- ・特定の4つの基本目標のベースは、「魅力的なしごと」にある。決められた業種だけではなく、いろんな業種が高岡に進出できるような政策を考えてほしい。

市長

- ・今まで高岡になかった業種の方々をいかに誘致するかは、大きな課題であり、女性の働く場の創出にもつながる。様々なご意見をいただきながら、行政として、やるべきことをしっかりと努めてまいりたい。

委員

- ・高岡の瑞龍寺と万葉歴史館を市外の人に案内し、高岡には素敵ないところがあるという声を聞いた。まずは、高岡に来ていただかないと、そのよさを理解していただけない。

市長

- ・高岡市民が観光に関しておもてなしの精神を持っていないと絶対に人は来てくれない。まずは、市民の皆さんに、市内にある魅力的な場所を訪れていただけるような仕組みを考えていきたい。

参与

- ・議会としても施策として空き家、関係人口、観光というキーワードを含め、取り組んでいきたい。

(4) 閉 会

以上